

プレスリリース

市民ワークショップの開催について ～昔も今も、川崎の南端は最先端を目指す～

ご注意：新型コロナウイルス感染症対策として、ワークショップ会場は密にならないよう配慮しています。取材ご希望の場合は、必ず事前にご連絡頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

<本発表の要旨>

- 本年12月の土曜日曜日（4日、18日を除く）に「かわさき宙と緑の科学館」（川崎市多摩区）にて川崎市が実施予定のイベントで市民ワークショップを開催（19日、26日限定）。
- 両日ともに、午前の部（小中学生対象）と午後の部（高校生以上対象）を設け、計4回の実施。
- 川崎市南部以外に住む方々にも、ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）についての認知度を高め、市民のニーズに応える活動を展開することが目的。
- 12/13には、別途、川崎市立川崎総合科学高校においても、最先端で活躍する研究者たちとのワークショップを開催。テーマは、「超高齢社会にどう備えるか？」

報道関係者 各位

平素は大変お世話になっております。

公益財団法人川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター（センター長：片岡一則、所在地：川崎市川崎区、略称：iCONM）は、川崎市多摩区の生田緑地にある「かわさき宙と緑の科学館」2階学習室にて以下に記す市民ワークショップを開催します。これは、川崎市が企画運営を行う同館での市民イベントの一環として実施するもので、日本経済の成長に大きく貢献した京浜コンビナートで培われた川崎市臨海部の土壤に、バイオテック / ヘルステックの集積地として殿町国際戦略拠点「キングスカイフロント」を立地した背景、そして、その中核機関である iCONM の活動を川崎市南部以外にお住いの方々にも知って頂ければと本ワークショップを企画しました。大型貨物船の接岸を可能にし、加工貿易により雇用拡大、経済活性化が行われていた川崎市臨海部では、産学連携からの知財創出や社会実装が既に行われていて、その血脈が、多様性からのイノベーションの創出といったイノベーション・エコシステムの構築に今後繋がっていくと考えています。

- ① 12/19 午前：ナノマシンを創造してみよう。（小中学生対象）
ナノの世界を体感するフィルムを鑑賞し、そこでも描かれたナノマシンについて学習。その後、各自自由な発想でナノマシンを画用紙に描き、発泡スチロールなどからなる部品を組み合わせて自分が設計したナノマシンの模型を創る。定員：親子 16 組。
- ② 12/19 午後：夢を形に！昔も今も～川崎の南端は最先端を目指す～（高校生以上対象）
大型船舶が接岸できる港を大規模な埋め立て工事で造成し、加工貿易で栄えた川崎市臨海部。鉄鋼、石油精製、化学などの新しい産業が勃興し、次々とイノベーションが生まれ育ってきた。最近では、生命科学や環境科学に関する先端研究も行われており、モノづくりの街「川崎」の DNA を受け継いだ多くのベンチャーが誕生している。この常に最先端を追い求める臨海部の土地柄について述べる。また、参加者との対話により、どのような研究が望まれているかを知り、iCONM の今後の活動の参考にする。定員：20 名。
- ③ 12/26 午前： ナノマシンを創造してみよう。（小中学生対象）
①と同じ内容。定員：親子 16 組。
- ④ 12/26 午後： 超高齢社会に求められる科学技術（高校生以上対象）
近い将来、3 人に 1 人が 65 歳以上となる現実をみつめ、超高齢社会が生活に及ぼす影響について考える機会を提供する。高齢化を止めることはできないので、その影響を最小化するための科学技術について意見交換をする。その内容から社会ニーズと提言をまとめ、iCONM の今後の活動の参考にする。定員：20 名。

【応募要領】

以下のサイトから応募が可能で、11/21 まで受け付けます。応募者多数の場合は抽選で受講者を決定し、11/30 までに参加確定のご連絡をさせていただきます。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/form/iconmkagakukan/index.html>

当研究センターでは、健康長寿の社会（スマートライフケア社会）の実現をビジョンに掲げ、体内の異常を検出するや否や、その将来のリスクを診断し、必要ならば治療までを無意識のうちに行ってしまう体内病院の実現を 2045 年までに達成しようとしています。今回のイベントは、iCONM の研究者が自身の研究の方向性を見定める良いきっかけになると考えており、また、参加者にとっては、医療リテラシーの向上とともに、ワークショップを通して社会と自然科学の繋がりを知り、自身を守るための術を会得するきっかけとなれば幸いです。

尚、超高齢社会をテーマとしたワークショップは、川崎市立川崎総合科学高校・科学科 2 年生を対象として 12/13 に同校においても実施する予定です。体内病院が実現する 2045 年には、社会の中核として活躍が期待される現代の高校生と、スマートライフケア社会の実現を目指して最先端で活躍する研究者達の意見交換からは、予想外の発想が生まれる可能性があります。取材をご希望の方は当方まで、メールにてご連絡ください。

公益財団法人川崎市産業振興財団について

産業の空洞化と需要構造の変化に対処する目的で、川崎市の 100%出捐により昭和 63 年に設立されました。市場開拓、研究開発型企業への脱皮、それを支える技術力の養成、人材の育成、市場ニーズの把握等をより高次に実現するため、川崎市産業振興会館の機能を活用し、地域産業情報の交流促進、研究開発機構の創設による技術の高度化と企業交流、研修会等による創造性豊かな人材の育成、展示事業による販路拡大等の事業を推進し、地域経済の活性化に寄与しています。

<https://www.kawasaki-net.ne.jp/>

ナノ医療イノベーションセンターについて

ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）は、キングスカイフロントにおけるライフサイエンス分野の拠点形成の核となる先導的な施設として、川崎市の依頼により、公益財団法人川崎市産業振興財団が、事業者兼提案者として国の施策を活用し、平成 27 年 4 月より運営を開始しました。有機合成・微細加工から前臨床試験までの研究開発を一気通貫で行うことが可能な最先端の設備と実験機器を備え、産学官・医工連携によるオープンイノベーションを推進することを目的に設計された、世界でも類を見ない非常にユニークな研究施設です。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>

川崎市青少年科学館（通称：かわさき宙と緑の科学館）について

理科教育の充実を図る目的で、プラネタリウムを持つ科学館のニーズが高まり、1971 年に川崎市青少年科学館はオープンしました。今年が創立 50 年を迎えます。1983 年には、自然に関する展示室や実験室、天体観測室などを備えた本館が完成し、常設展示室には「川崎の大地のあゆみ」「多摩丘陵の四季」など 4 つのコーナーが設けられました。2012 年、施設の老朽化に伴い、旧プラネタリウム館を建替えて自然学習棟に、旧本館を改築して研究管理棟とし、通称「かわさき宙と緑の科学館」として現在の姿となりました。プラネタリウムは、直径 18m の新ドームに川崎市出身の世界的プラネタリウムクリエイターである大平貴之氏の開発した世界に 1 台の最新鋭機、メガスターⅢフュージョンが設置されています。館の屋上には 4 台の望遠鏡が設置された可動屋根付きの天体観測スペース「アストロテラス」があり、昼間の太陽観察、夜間の天体観測会「星を見る夕べ」が開催されています。

<https://www.nature-kawasaki.jp/>

2021 年 11 月 4 日